



株式会社島津製作所(東証プライム市場：証券コード7701)

## 2024年3月期 通期決算説明会

代表取締役社長 CEO 山本靖則 | 2024年5月13日

※ 本会議の内容に関しては、現時点の予測に基づく将来の見通しを述べる場合がございますが、これらは全てリスク並びに不確実性を伴っております。実際の結果が見通しと異なる場合があることをあらかじめご了承ください。

## 01 決算概要

みなさんこんにちは。社長の山本です。  
いつも大変お世話になっており、感謝申し上げます。本日も忌憚なく様々なご質問をいただきたく  
思っておりますので、よろしくお願いいたします。

それでは、2024年3月期通期決算説明会を開催いたします。

## 通期決算業績サマリー

### 連結業績

- 売上高**5,000億円**を突破：5,119億円
- 営業利益**700億円**を突破：728億円
- 売上高、営業利益、経常利益、当期純利益  
全て**4期連続過去最高を更新**

### セグメント別

- 売上高  
**計測が過去最高を更新し牽引**  
\* +236億 (+7%) 成長の3,383億円
- 営業利益  
**産業・航空の増益**が貢献

### 重点機種

- 計測重点機種：  
海外の製薬、臨床、環境分野を中心に伸長、  
**合計で10%成長**
- ターボ分子ポンプ（TMP）：  
半導体向けの減少をグリーン向けが補い**3%成長**

\*計測重点機種3機種：LC(液体クロマトグラフ)、MS(質量分析システム)、GC(ガスクロマトグラフ)

### 地域別

- 全地域で増加**：為替の追い風もあり
- 北米：前半の遅れを製薬・PFAS案件でカバー
- 欧州**：計測、医用、産業で増加
- 中国：市況悪化の影響を受け厳しく推移
- インド：製薬向けでLC,MSが増加

決算業績サマリーを説明します。

連結業績は、売上高5,000億円を初めて突破し、5,119億円となりました。  
営業利益も700億円を突破し728億円となり、売上高、営業利益、経常利益、当期純利益、全て4期連続で過去最高を更新しました。

セグメント別では、売上高は、計測が3,383億円、前年比プラス7%と、過去最高を更新し、全社を牽引しました。  
営業利益は、産業・航空が増益となり、業績に貢献しました。

重点機種は、計測重点機種である液体クロマトグラフ、質量分析システム、ガスクロマトグラフが、海外の製薬、臨床、環境分野を中心に伸長し、3機種合計で前年比10%増加しました。ターボ分子ポンプは半導体需要減少の影響をうけましたが、太陽電池や省エネ性能の高い建材ガラス製造に使用する薄膜製造装置向け（グリーン関連）が補い、前年比3%増加しました。

地域別では為替影響もあり、全地域で増加しました。

# 損益計算書

・売上高5,119億円、営業利益728億円（営業利益率14.2%）、経常利益769億円、当期純利益570億円  
 ・次の成長に向けた投資を積極的に推進、研究開発費は13%増の215億円（売上高研究費率4.2%）

売上高		営業利益		営業利益率		当期純利益	
前年同期比：+297億円/+6%		前年同期比：+45億円/+7%		前年同期比：+0.1pt		前年同期比：+50億円/+10%	
5,119億円		728億円		14.2%		570億円	
業績	単位：億円	通期		前年同期比			
		FY2022	FY2023	増減額	増減率		
	売上高	4,822	5,119	+297	+6%		
	営業利益	682	728	+45	+7%		
	営業利益率	14.1%	14.2%	+0.1pt			
	経常利益	709	769	+60	+8%		
	親会社株主に帰属する当期純利益	520	570	+50	+10%		
為替	平均為替レート：米ドル(円)	135.51	144.66	+9.15	+7%		
	ユーロ(円)	141.02	156.85	+15.83	+11%		
	研究開発費	190	215	+25			
	設備投資額	225	225	▲0			
	減価償却費	175	186	+10			

為替影響額

売上高：196億円  
 営業利益：65億円

\*記載の数値は億円未満を四捨五入した数値となっており、表記上の合計値、差額と合わない場合があります。

損益計算書を説明します。

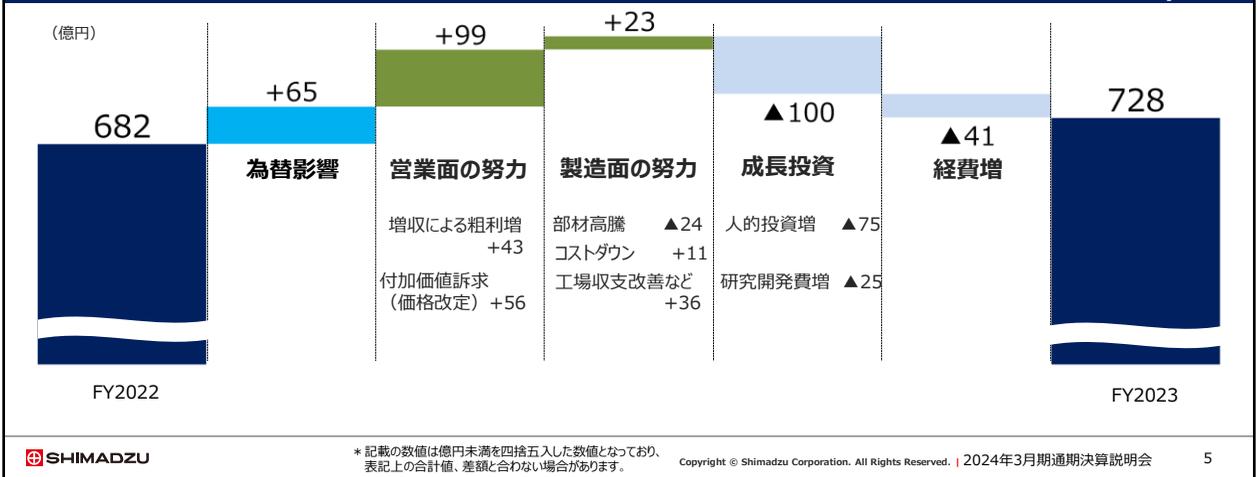
売上高は5,119億円、前年比6%増加となりました。営業利益は728億円、前年比7%増加、営業利益率は14.2%、前年比0.1ポイント増加しました。親会社株主に帰属する当期純利益は570億円、前年比10%増加し、為替の影響等により、営業利益の伸びを上回りました。

将来に向けた成長投資を積極的に行い、研究開発費は215億円、前年比25億円増加となりました。

## 営業利益増減要因

・営業利益は45億円増加し728億円

【営業面の努力】	計測・産業・航空の増収に伴う粗利増と付加価値訴求	+99億円
【製造面の努力】	部材高騰に対し、工場収支改善などの粗利率改善	+23億円
【成長投資増加】	人的投資、研究開発投資などの成長投資増	100億円（利益押下げ）



SHIMADZU

\* 記載の数値は億円未満を四捨五入した数値となっており、表記上の合計値、差額と合わない場合があります。

Copyright © Shimadzu Corporation. All Rights Reserved. | 2024年3月期通期決算説明会

5

営業利益増減要因についてご説明します。

為替変動により営業利益を+65億円押し上げました。

増益要因には2つあります。

営業面の努力による効果が+99億円ありました。

内訳は、増収による粗利増が+43億円、製品の付加価値訴求（価格改定）などが+56億円となります。

製造面の努力による効果は+23億円ありました。内訳は、部材高騰により▲24億円、コストダウンで+11億円、工場収支の改善などが+36億円となります。

減益要因としては2つあります。

成長投資により▲100億円減少となりました。内訳は、人的投資で▲75億円、研究開発費で▲25億円となります。

経費の増加により▲41億円となりました。コロナ禍で控えていた人の往来が再開し、旅費交通費や広告宣伝費が増加しました。

最終的に営業利益は前年から45億円増加し、728億円となりました。

## セグメント別損益

・売上高は計測が牽引+236億円。営業利益は、航空+23と産業+18が貢献。

### 計測／売上高

- ・重点機種がヘルスケア・グリーン領域で増加
- ・PCR試薬減少（▲60億円）

### 計測／営業利益

- ・研究開発費、人的投資などの成長投資増加
- ・利益率の高いLCが中国で苦戦

### 医用／売上高

- ・注力している血管撮影システムがグローバルに大幅増（48%成長）
- ・日本は大口案件、補正予算の反動を受け減収

### 医用／営業利益

- ・減収、成長投資増により減益

### 産業／売上高

- ・EV用セラミック製造向けで工業炉、太陽光、建材ガラス向けでTMP増加

### 産業／営業利益

- ・増収効果、付加価値訴求により増益

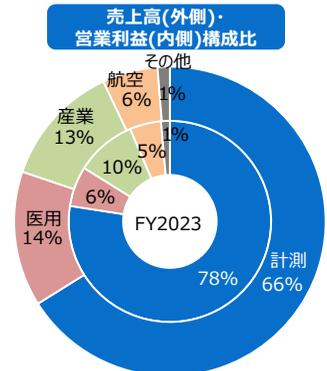
### 航空／売上高

- ・防衛・民間航空ともに増加

### 航空／営業利益

- ・増収効果に加え、採算性が改善し営業利益率が向上

単位: 億円	売上高			営業利益			営業利益率	
	FY2023	前期比		FY2023	前期比		FY2023	前期比
		増減額	増減率		増減額	増減率		
計測機器	3,383	+236	+7%	575	▲1	▲0%	17.0%	▲1.3pt
医用機器	723	▲36	▲5%	48	▲8	▲14%	6.6%	▲0.7pt
産業機器	654	+24	+4%	72	+18	+32%	11.0%	+2.4pt
航空機器	295	+55	+23%	37	+23	+167%	12.6%	+6.8pt
その他	65	+18	+37%	10	+4	+75%	11.4%	+3.0pt
調整額	-	-	-	▲15	+9	-	-	-
合計	5,119	+297	+6%	728	+45	+7%	14.2%	+0.1pt



セグメント別損益についてご説明します。

売上高は、医用機器以外が増収となりました。計測機器が売上高を牽引し、航空機器は前年から大幅に増収となりました。

営業利益は、計測機器と医用機器が減益、産業機器と航空機器が増益となりました。計測機器は、予定より研究開発を進めたことで、研究開発費が増加し、減益となりました。医用機器は売上高の減収に伴い、減益となりました。産業機器と航空機器は売上高の増収に伴い、増益となりました。

スライド右側の円グラフは売上高、営業利益のセグメント別構成比を表しています。計測機器の売上高構成は前年からやや増加し66%、営業利益は78%を占めています。

## 重点機種 と TMP機種

- ・重点機種（LC,MS,GC）はヘルスケア領域、グリーン領域及びアカデミアで増加
- ・TMPは、半導体製造装置向けは減少したが、グリーン関連向け（薄膜太陽電池製造装置など）が増加

### 計測重点機種 前年比 +10%

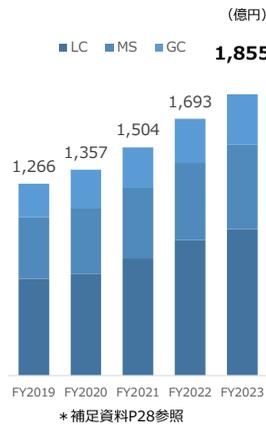
**LC :**  
日本、北米、欧州、  
その他のアジアで製薬向け増加



**MS :**  
日本でアカデミア、  
欧州で臨床向け増加



**GC :**  
グリーン領域でグローバルに増加

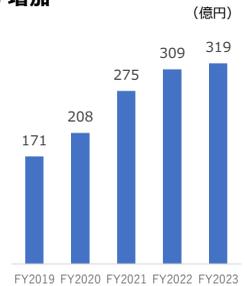


### TMP 前年比 +3%

- ・半導体製造装置向けは減少
- ・グリーン関連向け（薄膜太陽電池製造装置など）が増加



\* 補足資料P38参照



計測重点機種とターボ分子ポンプ（TMP）についてご説明します。

計測重点機種は、主力製品である液体クロマトグラフ、質量分析システム、ガスクロマトグラフの3つの製品を指しています。

計測重点機種は、ヘルスケア領域、グリーン領域、アカデミア（大学等）で増加し、3製品の売上高合計は1,855億円となり、前年比10%増加しました。  
地域別では、液体クロマトグラフが日本、北米、欧州、インドや東南アジア諸国で製薬向けに増加しました。質量分析システムは、日本で大学の研究機関向けや、欧州の臨床向けで増加しました。ガスクロマトグラフは、グローバルで水素の不純物測定や温室効果ガス測定などのグリーン関連向けが増加しました。

ターボ分子ポンプは主に半導体製造装置に搭載される高性能の真空ポンプであり、産業機器の主力製品です。  
売上高は319億円、前年比3%増加しました。半導体製造装置向けは減少しましたが、太陽電池や省エネ性能の高い建材ガラス製造に使う、薄膜製造装置向けが増加し、堅調に推移しています。

## 地域別売上高

Excellence in Science  
&  
Best for Our Customers

- ・日本は、計測、航空が牽引し2%増収
- ・海外は、欧州とその他のアジアが牽引し9%増収

単位 億円	FY 2022	FY 2023	前年同期比		概要
			増減額	増減率	
日本	2,111	2,156	+45	+2%	<ul style="list-style-type: none"> <li>・計測 +5%：製薬向けにLC、MSが増加。新エネルギー開発向けにGC、新素材開発向けに試験機が増加</li> <li>・医用 ▲15%：補正予算の減少、大口案件の反動減</li> <li>・産業 ▲2%：セラミック向け工業炉は増加したが、半導体製造装置向けTMPが減少</li> <li>・航空 +19%：防衛向け増加</li> </ul>
海外	2,711	2,963	+252	+9%	
北米	576	606	+30	+5%	<ul style="list-style-type: none"> <li>・計測 +2%：特定顧客向けLC、臨床向けMS（MALDI）が減少。その影響を除けば+15%</li> <li>・医用 ▲1%：病院の設備投資の停滞</li> <li>・産業 +3%：フォークリフト向け油圧機器が増加</li> <li>・航空 +37%：民間航空機向け増加</li> </ul>
欧州	417	489	+72	+17%	<ul style="list-style-type: none"> <li>・計測 +19%：製薬向けにLC、臨床・アカデミア向けにMS、新エネルギー向けにGCが増加</li> <li>・医用 +12%：注力している東欧向けが増加</li> <li>・産業 +12%：半導体製造装置向けTMPが増加</li> </ul>
中国	967	999	+31	+3%	<ul style="list-style-type: none"> <li>・計測 +1%：製薬、受託分析向けLCが減少、新エネルギー向けGC、臨床・アカデミア向けMSが増加</li> <li>・医用 +15%：現地生産しているX線TVシステムや注力している血管撮影システムが増加</li> <li>・産業 +10%：太陽電池や建材ガラスの製造に使用する薄膜製造装置向けTMPが増加</li> </ul>
その他の アジア	522	593	+71	+14%	<ul style="list-style-type: none"> <li>・計測 +17%：製薬向けにLC、MSが増加。新エネルギー開発向けにGC、新素材開発向けに試験機が増加</li> <li>・医用 +3%：東南アジアで回診車の大口案件の反動減があったが、注力している血管撮影システムが増加</li> <li>・産業 +5%：セラミック向け工業炉が増加</li> </ul>

SHIMADZU

Copyright © Shimadzu Corporation. All Rights Reserved. | 2024年3月期1Q決算説明会

8

### 地域別売上高についてご説明します

日本は前年比2%増加。計測機器は前年比5%増加。コロナ関連のPCR試薬や検査装置が前年比70億円減少しました。一方、製薬向けに液体クロマトグラフや、アカデミア向けに質量分析システム、水素などの新エネルギー開発向けにガスクロマトグラフが増加しました。加えて、次世代モビリティなど自動車の車体軽量化に向けた新素材開発用途で、素材強度を測るために試験機が増加しました。医用機器は厳しく推移し、前年比15%減少。一方航空機器は前年比19%増加しました。

海外全体では前年比9%増加。欧州とその他のアジアが業績を牽引しました。

欧州は前年比17%増加。計測機器は前年比19%増加。製薬向けに液体クロマトグラフや、臨床向けに質量分析システムが増加しました。加えて、医用機器や産業機器も増加しました。

その他のアジアは前年比14%増加。計測機器は前年比17%増加。インドや東南アジアで製薬向けに液体クロマトグラフや質量分析システムが増加しました。

中国は前年比3%増加。計測機器は前年比1%増加。受注は厳しく推移したものの、受注残を売上転化したことで、増収となりました。医用機器は前年比15%増加、産業機器は前年比10%増加したことで、中国は増収となりました。

## 02 2024年度通期業績予想

## 事業環境及び主な施策

・地政学的リスクの継続に加え、米中貿易摩擦、インフレなどの影響を受け、先行き不透明な状況が続くと予想  
・4領域の中で、需要が拡大している市場に注力し、様々な施策を遂行する

ヘルスケア	<b>ライフサイエンス</b> <b>【事業環境】</b> <ul style="list-style-type: none"> <li>創薬開発や自国生産強化で製薬市場拡大</li> <li>中国市況の低迷</li> </ul> <b>メドテック</b> <b>【事業環境】</b> <ul style="list-style-type: none"> <li>臨床市場拡大</li> <li>シニアヘルスケア市場拡大</li> <li>中国市況の低迷</li> </ul>	<b>【施策】</b> <ul style="list-style-type: none"> <li>&lt;計測&gt; 製薬：進化するラボの提案 *P16</li> <li>北米市場向けソリューションの提供 *P17</li> <li>中国：中国市場への取り組み *P23</li> </ul> <b>【施策】</b> <ul style="list-style-type: none"> <li>&lt;計測&gt; 臨床：臨床プラットフォームの構築 *P18</li> <li>中国：中国市場への取り組み *P23</li> <li>&lt;計測・医用&gt; シニアヘルスケア事業の拡大 *P19</li> </ul>	マテリアル	<b>【事業環境】</b> <ul style="list-style-type: none"> <li>新素材開発研究増</li> <li>化学業界投資減</li> </ul> <b>【施策】</b> <ul style="list-style-type: none"> <li>&lt;計測&gt; 試験機の新素材向けアプリケーション、治具強化、海外販売強化</li> <li>&lt;産業&gt; セラミック向け工業炉拡販</li> </ul>
	<b>GX(グリーン)</b> <b>【事業環境】</b> <ul style="list-style-type: none"> <li>脱炭素に向けた研究開発進展</li> <li>PFAS需要増</li> </ul>	<b>【施策】</b> <ul style="list-style-type: none"> <li>&lt;計測&gt; グリーン（水素）向けトータルソリューション *P20</li> <li>環境（PFAS）向けトータルソリューション *P21</li> <li>&lt;産業&gt; 太陽電池向けTMP 拡販</li> </ul>		<b>【事業環境】</b> <ul style="list-style-type: none"> <li>半導体市場回復</li> </ul> <b>【施策】</b> <ul style="list-style-type: none"> <li>&lt;産業&gt; ターボ分子ポンプの成長戦略 *P22</li> </ul>

\*は関連するトピックスのページ

2024年度目標をご説明する前に、事業環境及び主な施策についてご説明します。事業環境は、ウクライナや中東情勢など地政学リスクは継続しており、米中貿易摩擦、インフレなどの影響も受けて、先行きは非常に不透明だと予測しております。このような中、当社は2023年度から中期経営計画を進め、ヘルスケア、グリーン、マテリアル、インダストリーの四つの領域を注力領域と位置づけ、各種施策を展開しています。

ヘルスケア領域には、ライフサイエンス、メドテックの二つの注力分野があります。ライフサイエンス分野の市場は主に製薬や食品安全市場です。製薬市場は、創薬開発や自国生産の強化により、市場は拡大すると想定しています。一方で、中国の製薬市場は低迷しており、回復に時間を要すると見えています。製薬市場に対しては、ラボ全体を当社の各種技術で進化させる、“進化するラボ”の構築を提案し、製品、付属のソフトウェア、その他機器など、分析計測のトータルソリューションを提供します。地域別では、特に注力している北米市場でソリューション提供を強化し、中国市場では薬典改定や漢方薬への取り組み強化を図ります。

メドテックは臨床向けの分析計測機器と医用機器が対象製品です。臨床市場は世界的に拡大しており、活発な動きを見せている欧州や中国で各種取り組みを強化したいと考えています。医用製品はシニアヘルスケア市場が拡大する中、骨や認知症への事業展開を強化したいと考えています。

グリーン領域は、グローバルで脱炭素に向けた研究開発が進み、環境問題で有機フッ素化合物（PFAS）の規制が強化されるなど、需要が増加しています。計測では水素やPFAS向けにトータルソリューション提供を進め、産業機器では太陽電池向けのターボ分子ポンプの拡販に注力します。

マテリアル領域は、グローバルで新素材開発が進むことや、サーキュラーエコノミーの一環として廃棄物を原材料としてリサイクルするなど、材料関連の需要拡大が想定されます。これらの分野に向けて製品展開を図ります。

インダストリー領域は半導体市場が主になります。半導体市場はAI需要により今後拡大することが想定されますので、需要の取り込みを確実に行っていきます。

# 2024年度通期業績予想

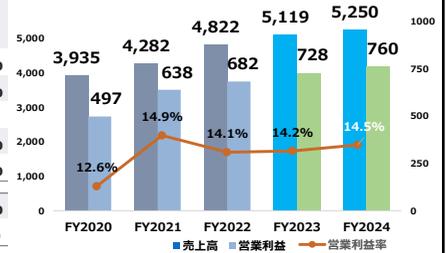
Excellence in Science  
&  
Best for Our Customers

- ・5期連続で過去最高更新を目指す
- ・研究開発費は65億円増加し280億円。売上高研究費率は5.3%（前年4.2%）

<b>売上高</b> 前期比：+131億円/ +3% <b>5,250億円</b>	<b>営業利益</b> 前期比：+32億円/ +4% <b>760億円</b>	<b>営業利益率</b> 前期比：+0.3pt <b>14.5%</b>	<b>当期純利益</b> 前年同期比：+10億円/+2% <b>580億円</b>
---	---	--	---

	単位：億円	通期		前期比	
		FY2023	FY2024 予想	増減額	増減率
業績	売上高	5,119	5,250	+131	+3%
	営業利益	728	760	+32	+4%
	営業利益率	14.2%	14.5%	+0.3pt	
	経常利益	769	770	+1	+0%
	親会社株主に帰属する当期純利益	570	580	+10	+2%
為替	平均為替レート：米ドル(円)	144.66	145.00	+0.34	+0%
	ユーロ(円)	156.85	155.00	▲1.85	▲1%
	研究開発費	215	280	+65	
	設備投資額	225	280	+55	
	減価償却費	186	200	+14	

売上高・営業利益推移(5年間) (億円)



為替感応度

米ドル ユーロ  
 売上高： 15億円 3億円  
 営業利益： 5億円 1億円

2024年通期業績予想についてご説明します。

2024年度の通期業績予想は、売上高5,250億円、営業利益760億円、営業利益率14.5%、当期純利益580億円を見込んでおり、5期連続で過去最高の更新を目指します。将来に向けた成長投資を今後一層強化し、研究開発費は、前年から65億円増加の280億円を計画しています。また、設備投資は55億円増加し、減価償却費は14億円増加を計画しております。

# 2024年度通期セグメント別業績予想

Excellence in Science  
&  
Best for Our Customers

受注残の売上転嫁、新製品の拡販を進め、計測、医用、産業で増収増益を目指す

### ◆ 増収計画

- 過去最高の期初受注残高を売上転嫁
- 新製品売上目標 +250億円  
(FY22,23に発売した新製品の拡販強化)
- 施策の確実な実行

### ◆ 増益計画

- 営業努力による増収、付加価値訴求  
(値上も含めて展開)
- 製造努力による工場収支改善
- 成長投資は140億円の予定  
(研究開発費は65億円増)

### ◆ セグメント別

- 計測・医用・産業は営業努力により増収増益を狙う
- 航空はプロダクトミックスの悪化で減益

単位: 億円	売上高				営業利益				営業利益率		
	FY2023	FY2024 予想	増減額	前期比 増減率	FY2023	FY2024 予想	増減額	前期比 増減率	FY2023	FY2024 予想	前期比 増減
計測機器	3,383	3,420	+37	+1%	575	600	+25	+4%	17.0%	17.5%	+0.5pt
医用機器	723	760	+37	+5%	48	60	+12	+26%	6.6%	7.9%	+1.3pt
産業機器	654	680	+26	+4%	72	80	+8	+11%	11.0%	11.8%	+0.8pt
航空機器	295	350	+55	+19%	37	30	▲7	▲19%	12.6%	8.6%	▲4.0pt
その他	65	40	▲25	▲38%	10	15	+5	+44%	11.4%	23.1%	+11.7pt
調整額	-	-	-	-	▲15	▲25	-	-	-	-	-
合計	5,119	5,250	+131	+3%	728	760	+32	+4%	14.2%	14.5%	+0.3pt

SHIMADZU

Copyright © Shimadzu Corporation. All Rights Reserved. | 2024年3月期通期決算説明会

12

2024年度通期セグメント別業績予想についてご説明します。

今年度は、過去最高に積みあがっている受注残を売上に転化していく事に加え、付加価値の高い新製品を拡販することで、計測、医用、産業で増収増益を目指します。

計測機器は売上高3,420億円、前年比1%増加。営業利益600億円、前年比4%増加。中国が厳しく推移するものの、年後半の需要回復を期待しています。新製品を拡販することで付加価値を訴求し、増益を図ります

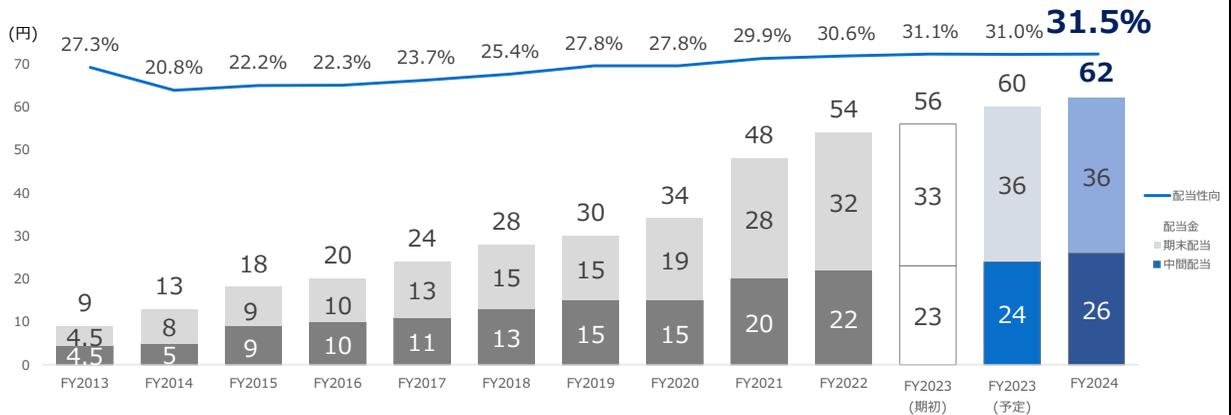
医用機器は売上高760億円、前年比5%増加。営業利益60億円、前年比26%増加。日本の病院関連設備投資の回復を見込んでいます。

産業機器は売上高680億円、前年比4%。営業利益80億円、前年比11%増加。半導体製造装置向けターボ分子ポンプの回復を見込んでいます。

航空機器は売上高350億円、前年比19%増加。営業利益30億円、前年比19%減少。今年度は防衛分野の売上増加に伴い製品ミックスが悪化することを想定し、減益としています。

## 株主還元（配当）

- ・配当金：FY23 期初想定比4円増配（中間+1円、期末+3円）、前年比6円増配となり10期連続の増配  
FY24 1株当たり62円と11期連続増配予定
- ・配当性向：還元方針（配当性向30%以上）に基づき、31.5%を予定



\*FY2023は定時株主総会で確定。FY2024は予定。

### 配当についてご説明します

中期経営計画では配当性向30%以上を維持すること、継続的な株主還元を行うことを還元方針としています。

還元方針に基づき、2024年度の配当は1株当たり62円、配当性向は31.5%、11期連続増配を予定しています。

## 株主還元（自己株式取得）

Excellence in Science  
&  
Best for Our Customers

- ・自己株式取得：株主還元強化、資本効率改善のために上限250億円の自己株買い枠を設定
- ・総還元性向：配当と自己株買いを併せたFY2024総還元性向は、74.6%を予定

取得株式総数：**12,500千株（上限）**

発行済株式総数（自己株式を除く）に対する割合 4.2%

株式の取得価額の総額：**250億円（上限）**

取得期間：2024年5月13日～2025年3月31日

取得方法：東京証券取引所における市場買付

自己株式取得についてご説明します

株主還元強化と資本効率改善のため、初めて自己株式取得を実行します。  
取得株式総数は上限1,250万株、取得価格総額は上限250億円です。

配当性向と自己株式取得をあわせた総還元性向は74.6%を予定しています。

## 03 トピックス

### ヘルスケア

- ・製薬市場向け“進化するラボ”構築の提案
- ・北米製薬市場へのトータルソリューションの提供
- ・メドテック事業の強化（臨床プラットフォームの構築：計測）
- ・メドテック事業の強化（シニアヘルスケア事業の拡大：計測・医用）

### グリーン

- ・グリーン向けトータルソリューション／水素
- ・環境向けトータルソリューション／PFAS

### インダストリー

- ・ターボ分子ポンプの成長戦略

### 海外事業拡大

- ・中国市場への取り組み

### 経営基盤

- ・ガバナンスの強化
- ・島津の求める人財の育成強化

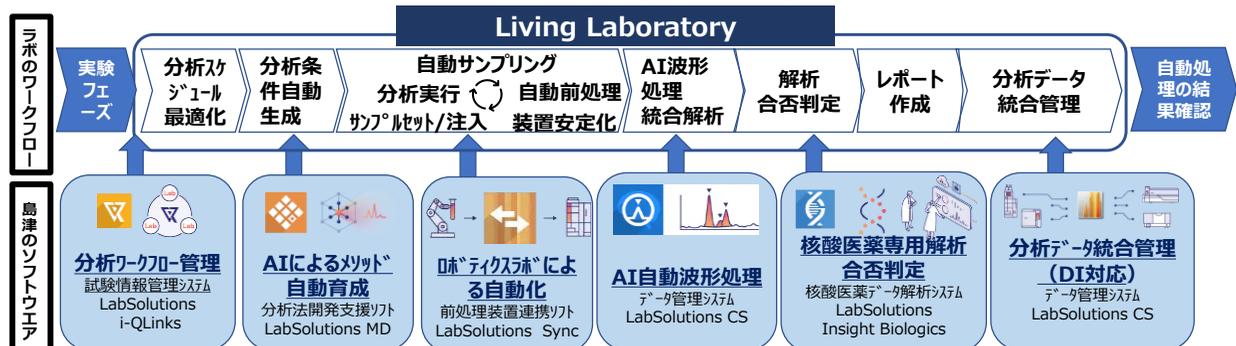
続いて、トピックスについてご説明します。

## 製薬市場に向けて“進化するラボ”の構築を提案

- ・“進化するラボ(Living Laboratory)”を実現し、お客様の分析計測の生産性向上に寄与する
- ・他社の機器も含め多機種を接続できるネットワークシステムにより、分析データ統合管理と効率化を両立
- ・準備、前処理、分析、データ解析、データ管理までのラボワークと、ネットワークシステムまで全てのソリューションを提供

### 進化するラボ：living laboratoryの特長

- 分析計測機器、ロボティクス、AI、IoT技術を活用し、ラボのワークフロー全体を統合運用管理するシステム
- ラボで必要となるワークフローをトータルサポートすることで、分析プロセスの生産性向上
- 新たなワークフローへの対応をスムーズに行い、研究者のより高度な業務への集中を支援する



最初に、進化するラボについてご説明します。

当社は製薬市場に向けて「進化するラボ-Living Laboratory」を提案し、顧客の分析計測の生産性を向上させ、研究開発に貢献したいと考えています。

進化するラボでは、実験フェーズから自動処理の結果確認まで、ラボのワークフロー全体をロボティクス、AI、IoT技術を活用して統合運用管理します。

これらのワークフローの中で、当社は複数のソフトウェアを取りそろえており、その中には分析ワークフロー管理から、AIによるメソッド自動育成が実現できる、LabSolutions MDというソフトウェアがあります。また、AI自動波形処理、核酸医薬の専用解析合否判定、データインテグリティ (DI) に対応した分析データ統合管理向けのソフトウェアも準備しています。

加えて、ロボティクスを活用した自動化を実現することも可能です。

このように、ラボ（研究施設）を高度にすることで、顧客は創薬開発やデータ分析など、より高度な業務に集中できるため、進化するラボを製薬市場に展開していきたいと考えています。

これらの仕組みはアジアでスタートし、いくつか導入例があります。米国への展開に向け、アジアと米国の販売部門がコラボレーションするなど、取り組みを進めています。

## 北米製薬市場へのトータルソリューションの提供

- ・先端ニーズに応える製品：メガファームで超臨界液体クロマトグラフ分析・分取・抽出システムの採用が進む
- ・先端ニーズに応える技術開発：開設した北米R&Dセンターで、北米の先進的な顧客との密着型開発を加速
- ・アフターサービスの強化：マルチベンダーサービス(MVS)により高度なアフターサービスを提供

### ◆ セミ分取超臨界流体クロマトグラフの拡販

- ・既に北米製薬の40社以上に納入
- ・溶媒消費量を当社比94%削減、環境負荷大幅低減



米国大手製薬が参画するコンソーシアム\*の要求仕様をもとに製品化  
\* Enabling Technologies Consortium

超臨界液体クロマトグラフ分析・分取・抽出システム「Nexera UC Prep」

### ◆ マルチベンダーサービス\*(MVS)による顧客接点強化

\* 製造元を問わず一社による一括したメンテナンス・サービスを提供

- ・品質管理の厳格化に伴い、MVS需要増加
- \* MVS市場規模 約10億ドル CAGR 7%



分析機器のMVS会社 Zef Scientific Inc. (米国) を買収

### ◆ 北米R&Dセンター（3施設）を設立

・北米R&Dセンター開発製品の売上高目標：FY2025 \$35M

#### 西海岸開発センター

- ・製薬 & バイオ系企業の先端ニーズ把握
- ・自動化の企画・協業

#### 東海岸開発センター

- ・大手製薬の上流部門の先端ニーズ把握
- ・最先端技術を搭載したMSの企画開発



#### 北米R&Dセンター

- ・東西開発センターからの顧客ニーズに基づいたハードウェア・ソフトウェア・アプリの開発と評価



## 北米製薬市場へのトータルソリューションの提供についてご説明します

北米では、今年4月に3つのR&Dセンターの開所式を行いました。東海岸のメリーランドにある北米R&Dセンターは本部として、ハードウェア・ソフトウェア・アプリの開発と評価をします。

東海岸開発センターは、先端技術を保有する大手製薬の研究部門やスタートアップが集積するボストンにあり、先端ニーズの把握と、最先端技術を搭載した装置の企画開発を行います。

西海岸開発センターは、製薬バイオ系企業が集積するカリフォルニアにあり、自動化の企画・協業を行います。

東西のセンターで把握したニーズを元に、R&Dセンターあるいは日本の開発部隊が協力しながら、いち早く製品化し、お客様のニーズに応じていく事が北米R&Dセンターの設立の目標です。

また、北米R&Dセンターの前身であるイノベーションセンターは、顧客ニーズを把握して研究開発を行っていました。その成果が、スライド左にある、セミ分取超臨界流体クロマトグラフ（SFC）です。この経験を基に、今回R&Dセンターを設立しました。

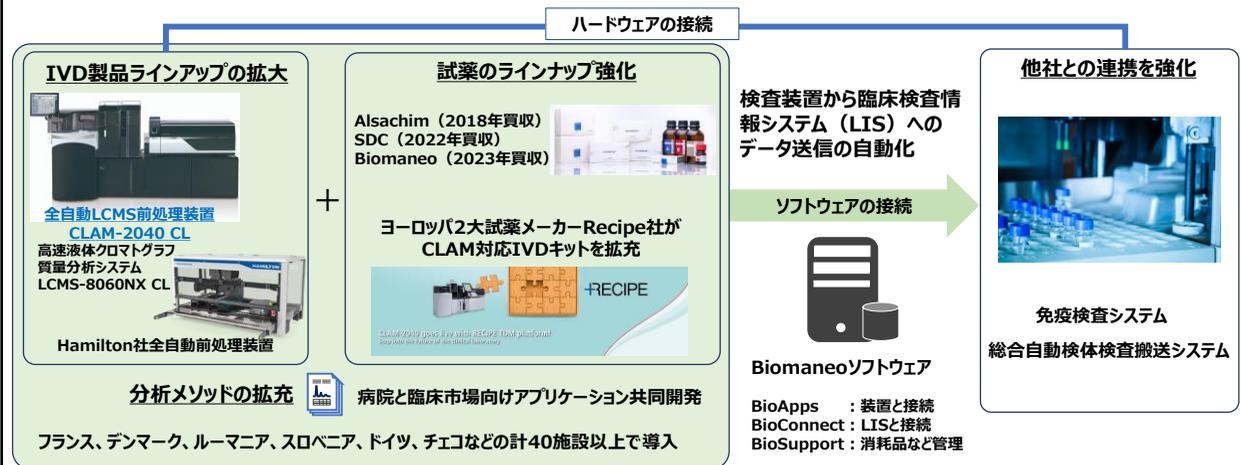
SFCは北米製薬企業で40社以上に納入実績があります。堅牢性と操作性が優れている事や、溶媒の消費量を当社比で94%削減するなど環境面でも評価され、現在も多数引合があります。なお、北米だけでなく欧州でも多数納入実績があります。

2024年4月には、当社はマルチベンダーサービス（MVS）を行う、Zef Scientific.Inc（米国）を買収しました。北米市場では品質管理の厳格化に伴い、MVSの需要が増えています。MVS市場の成長率は高く、当社は買収を通じてMVSに参加します。

Zef Scientific.Incは大手製薬会社を顧客としており、当社がZef Scientific.Incを通じて大手製薬会社へコンタクトし、製品の拡販も図ります。

## メドテック事業の強化（臨床プラットフォームの構築：計測）

- ・当社独自の全自動前処理装置CLAM と 他社全自動前処理装置を活用した臨床用LCMSプラットフォームの構築
- ・M & Aや提携を推進し、顧客への提供価値を拡大する



メドテック事業の強化についてご説明します。

メドテック事業では臨床プラットフォームの構築を行います。計測機器の全自動前処理装置CLAMとHamilton社製全自動前処理装置を用意し、製品ラインナップを拡充しました。両社の特徴を使い分けながら、全自動臨床検査プラットフォームの提供を進めます。

当社の臨床プラットフォームはフランス、デンマーク、ルーマニア、スロベニア、ドイツ、チェコ等、40施設以上で導入実績があります。

試薬ラインナップ強化のために、当社は試薬メーカーの買収を進めてきました。加えて、欧州では2大試薬メーカーの一つであるRecipe社と共同でCLAM対応IVDキットの拡充を図ります。

欧州の臨床検査会社は総合自動検体検査搬送システムを導入しており、様々な検査システムが搭載されています。当社の製品をシステムに搭載させるために、昨年度システム接続に必要なソフトウェア会社を買収しました。

ハードウェア、ソフトウェア、試薬をセットにして、他社との連携を強化し、臨床プラットフォームの構築を進めていきたいと考えています。

## メドテック事業（シニアヘルスケア事業の拡大：計測・医用）

・健康寿命の延伸に向けて、骨・心疾患・末梢血管・認知症予防に集中し、トータルソリューションを提供

「寝たきり」を防ぎ  
高齢者の予防医療  
介護者の負担軽減



「歩く」を支えることで  
高齢者のQOLを向上

### 「歩く」効果

- ・骨粗鬆症、虚血性心疾患などの罹患率低下
- ・認知症予防 (厚生労働省HPより)  
(東京都健康長寿医療センターHPより)

### 骨分野:骨ドック

#### <血中ビタミンD検査、X線TVシステム>

- ・骨折の検査、骨密度測定（患者の移動負担なし）
- ・骨粗鬆症の検査、人工関節置換術後の支援
- ・血中ビタミンD検査、治療薬血中濃度モニタリング
- ・医師の負担軽減にAIで診断サポート

### 心疾患・末梢血管:

#### <心疾患バイオマーカー探索、血管撮影システム>

- ・虚血性心疾患、下肢動脈疾患の発症予測、治療支援
- ・血管撮影システム:画像処理エンジンにAIを搭載、従来比40%の被ばく低減と視認性向上を両立

### 認知症検査分野

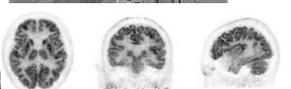
#### <血液検査、頭部・乳房用PET装置 BresTome>

- ・血液中のアミロイドβ測定
- ・頭部アミロイドβ蓄積画像の高精細化
- ・頭部PET納入先  
藤田医科大学東京 先端医療研究センター  
近畿大学高度先端総合医療センター  
LSI札幌クリニック など



単純X線撮影 AI Assist\*

骨折などの形態診断 骨密度の定量検査



頭部FDG正常例  
データご提供：近畿大学高度先端総合医療センター PET分子イメージング部 様

メドテック事業における、シニアヘルスケア事業の拡大についてご説明します。

この事業では、計測事業で培った分析計測技術と医用事業で培った画像処理技術の融合を進めていきます。

健康寿命を延伸するためには、寝たきりを防ぐことが重要です。寝たきりを防ぐことは高齢者の予防治療になり、介護者の負担軽減に繋がります。そのために、「歩く」を支えることで高齢者のQOLを向上させ、骨、心疾患、末梢血管、認知症予防に注かし、トータルソリューションの提供を目指します。

骨分野では、当社は慈恵医大と共同で「骨の健康」について取り組みを進めています。ビタミンBやカルシウム不足は骨折の原因になります。血液検査でこれらの成分を測定するとともに、当社のX線TVシステムで骨密度を測定するなど、骨粗しょう症の早期発見や予防を実現させることで、「骨の健康」増進に取り組めます。

心疾患、末梢血管では、当社の血管撮影システムを用いて、心疾患バイオマーカーを探索し、発症予測や治療支援に取り組めます。

認知症検査分野では、質量分析システムを用いた血液検査による超早期検査や、頭部・乳房用PET装置による診断など、当社の分析計測技術や医用画像診断技術を使った新しいソリューションの提供を目指します。

# グリーン向けトータルソリューション/水素

・水素向けで、新製品GC-2050・GCMS-QP2050によるシェア拡大。水素分析の標準化を狙う

**基礎研究・触媒研究**

水素製造研究



光反応評価装置  
Lightway

触媒反応・生成物評価



フーリエ変換  
赤外分光光度計  
IRXross

キャラクタリゼーション



ポータブル  
ガス測定装置  
CGT-7100

**水素製造**

一体型液体クロマトグラフ  
i-Series

**水素搬送**

精密万能試験機  
AGX-V2

**水素貯蔵**

貯蔵・輸送等インフラ技術評価

**水素不純物分析**

燃料純度  
・水素純度等

**水素利用**

メタネーション  
合成燃料  
ガス会社と共同開発

**水素不純物分析**

燃料純度  
・水素純度等

**水素不純物分析**

燃料純度  
・水素純度等

**GX領域における競争力を強化**

**米Activated Research Companyから  
マイクロリアクター事業を買収**




マイクロリアクター

- ・汎用的な検出器のみで複数の温室効果ガスの一斉分析が可能
- ・世界最大規模の業界規格化団体である米国試験材料協会（ASTM）で分析標準化を推進

NEW

水素不純物分析

イオンクロマトグラフ  
HIC-ESP

輸送キャリア評価

NEW

ガスクロマトグラフ  
質量分析システム  
GCMS-QP2050

精密万能試験機  
AGX-V2

マイクロフォーカスX線CTシステム  
inspeXio SMX-225CT.FPD.HR.Plus

ガスクロマトグラフ  
Brevis GC-2050

NEW

水素製造

エネルギー会社と共同開発

水素貯蔵

水素不純物分析

水素利用

水素不純物分析

水素不純物分析

グリーン向けトータルソリューションについてご説明します。

水素はCO<sub>2</sub>を排出しない次世代エネルギーとして期待されています。当社はガスクロマトグラフをはじめとする、水素に関連した様々な製品ラインナップを保有しており、日本、欧米、中国などグローバルで製品を展開しています。

昨年度、米国の会社からマイクロリアクター事業を買収しました。それを使って効率的な検査を実現するなど、ガスクロマトグラフのGX領域における競争力強化を図ります。

また、先日、世界で初めてバイオ燃料の品質に影響する成分の検出を可能にしたガスクロマトグラフ質量分析計を仏トタル社などと共同で開発しました。

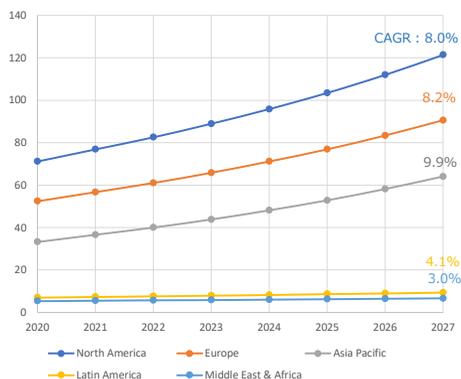
カーボンニュートラルに向けた水素やバイオ燃料などの新エネルギーへのシフトが進む中、当社はグリーン領域におけるトータルソリューションの提供を進めていきます。

# 環境向けトータルソリューション/PFAS

- ・米国環境保護庁基準（EPA）に沿った分析提案：前処理からレポート出力までトータルソリューションを提供
- ・世界的な基準強化の動向を背景に、PFAS向けLCMSシェア拡大を目指す

## PFAS分析の市場規模

ENVIRONMENTAL TESTING EQUIPMENT MARKET FOR PFAS, BY REGION (USD Mil)



出典：ENVIRONMENTAL TESTING EQUIPMENT MARKET – GLOBAL FORECAST TO 2027

### ◆ 北米での取組み（FY2023）

PFASタスクフォース活動展開：EPA基準に沿った分析を提案  
受託分析会社、水道局、アカデミア にLCMSを販売（シェア10%）

### ◆ 製品開発

PFAS分析に適した新製品の投入



### ◆ メソッド開発

PFAS用メソッド開発の推進



### ◆ 前処理開発

自動化の推進

### ◆ リカールング

PFAS向け消耗品ラインアップ拡大

環境関連の中で、特にPFAS向けトータルソリューションについてご説明します。

北米では、米国環境保護庁基準（EPA）に沿った分析提案を行い、前処理からレポート出力までトータルソリューションを提供しています。

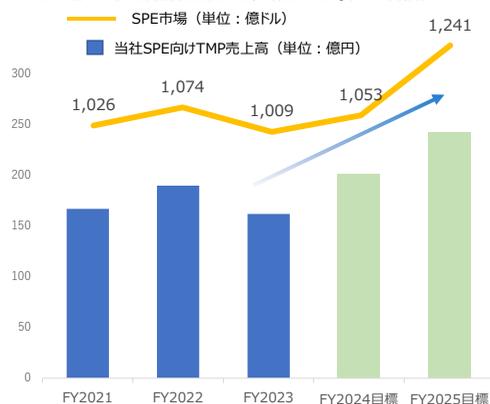
PFASは北米だけではなく、欧州、日本などグローバルで課題となっています。また、発がん性のリスクがあるなど、環境汚染や人体への健康が懸念されており、規制が強化されています。水道水、食品、地表水、排水などの分析が求められており、PFAS分析に向けたトータルソリューションを提案していきます。

# ターボ分子ポンプ<sup>®</sup> (TMP) の成長戦略

- ・半導体製造装置 (SPE) 市場は、FY2024、FY2025と増加見通し (FY2023実績は減少)
- ・SPE向けシェア拡大、サービス比率の拡大を図る

## 半導体製造装置 (SPE) 向けTMP売上高

- ・ SPEの市場回復とシェア拡大に伴い増加



## シェア拡大

- ・ 顧客の課題解決につながる高付加価値技術の提供
- ・ 4大SPEメーカーの新製品への搭載比率拡大

## リカーリング拡大

- ・ 半導体投資に合わせた拠点新設によるメンテナンス・サービス売上拡大 (現在グローバルで10拠点)
- ・ アップグレードサービス、エンドユーザへのダイレクトのサービス推進
- ・ 24時間365日フルサポート拡大



2023年6月に開設した中国武漢のサービス拠点

ターボ分子ポンプの成長戦略についてご説明します。

当社はターボ分子ポンプのシェア拡大に向けた取り組みを進めております。顧客ニーズに応じた高付加価値製品を提案し、グローバル大手半導体製造装置メーカー4社の新製品への搭載比率拡大を図ります。

また、リカーリング事業の拡大にも注力しています。グローバルで半導体への投資が拡大する中で、顧客である半導体製造拠点も世界中に広がっています。世界各地の半導体工場で、半導体製造装置に搭載されたターボ分子ポンプのメンテナンスサービスを提供することで、リカーリング比率向上を目指します。

半導体製造装置市場は今後も成長が期待されています。高付加価値製品でシェア拡大や、リカーリング事業の拡大を図り、ターボ分子ポンプ事業の成長を目指します。

# 中国市場

・足元は製薬・CxO\*を中心に厳しい市況が継続しているが、政府支援策が発表され需要拡大に期待  
 ・臨床、アカデミア、グリーンなど、需要が拡大している分野に注力

政府支援策：「大規模な設備更新と消費財の買い替えを推進する行動計画」発表、  
 医療・教育・インフラなどに対する設備投資更新に対して補助金・低金利ローンを提供

		市場環境	施策
ヘルスケア	ライフサイエンス	<ul style="list-style-type: none"> <li>製薬・CxO : 設備投資停滞が継続</li> <li>漢方薬 : 品管、安全性分析、残留規制強化など</li> <li>薬典 : 2025年に薬典改訂</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>漢方薬の残留農薬規制対応 強化</li> <li>2025年薬典改訂対応 早期提案</li> </ul>
	メドテック	<ul style="list-style-type: none"> <li>病院：発令された「総合病院機器構成標準」で県級の総合病院で質量分析計導入が進む</li> <li>血管撮影システムと中国製X線TV撮影が好評</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>試薬メーカーと提携しOEM展開</li> <li>医用製品継続展開</li> </ul>
GX(グリーン)		<ul style="list-style-type: none"> <li>リチウムイオン電池：研究開発強化、品質向上で需要増</li> <li>水素エネルギー : 各地で水素ステーション建設に伴う装置需要増</li> <li>環境規制の強化 : 新汚染物質管理行動法案施行</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>豊富な製品ラインアップで、研究開発から品質管理までのニーズに対応</li> <li>40種類の規制強化対応アプリを活用しLCMS、GCMS拡販</li> </ul>
アカデミア		<ul style="list-style-type: none"> <li>地方職業訓練学校：「職業教育産学融合強化行動実施計画(2023-2025)」に基づいた支援拡大</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>豊富な製品ラインで多くのニーズに対応</li> <li>国産優遇策には中国生産品で対応</li> </ul>

中国市場についてご説明します。

現状の中国市場は、製薬・CxOを中心に厳しく推移しています。一方、政府支援策による需要拡大など、今年度下期以降に業績への恩恵が期待されます。

中国ではヘルスケア（漢方薬、臨床など）、グリーン、アカデミア分野など、需要が拡大している分野に注力したいと考えています。

漢方薬では、残留農薬への規制対応強化に関わるソリューション提供、2025年薬典改定に向けた対応を進めます。

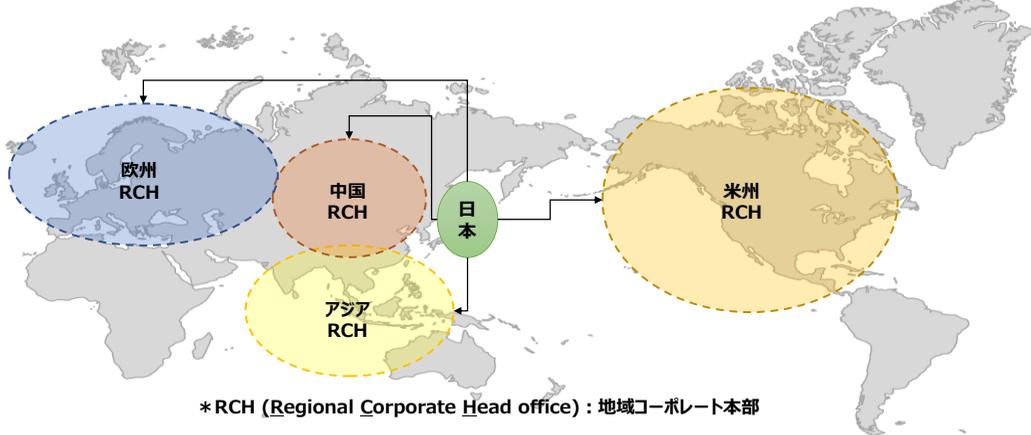
臨床分野では、病院の検査で液体クロマトグラフ質量分析システムの導入が進んでおり、OEMによる展開を図ります。加えて、血管撮影システムと中国市場向けに現地生産したX線TVシステムの拡販を図ります。

グリーン関連では、政府主導でリチウムイオン電池や水素エネルギーの研究開発や、環境規制強化を推進しています。豊富な製品ラインナップを活用して、様々なニーズに対応したソリューションを提供します。

アカデミアでは、政府の景気刺激策による支援で、需要拡大が期待されます。大学や研究機関では多種類に及ぶ分析計測機器が用いられるため、豊富なラインナップでニーズに対応します。国産優遇策に対しては、現地生産品で対応し、需要を取り込みます。

## ガバナンスの強化

- ・「リスク対策室」を新設：内部統制、コンプライアンス、リスクマネジメントを一体化して統合リスク管理を推進
- ・業務監査方針を策定：創設予定の地域コーポレート本部(欧・米・亜・中～2028年度)で監査実施、適時モニタリングと迅速な業務改善を図る
- ・地域コーポレート本部：本社からの監査業務移管／権限移譲を受け、配下の会社に対してガバナンスを効かせる



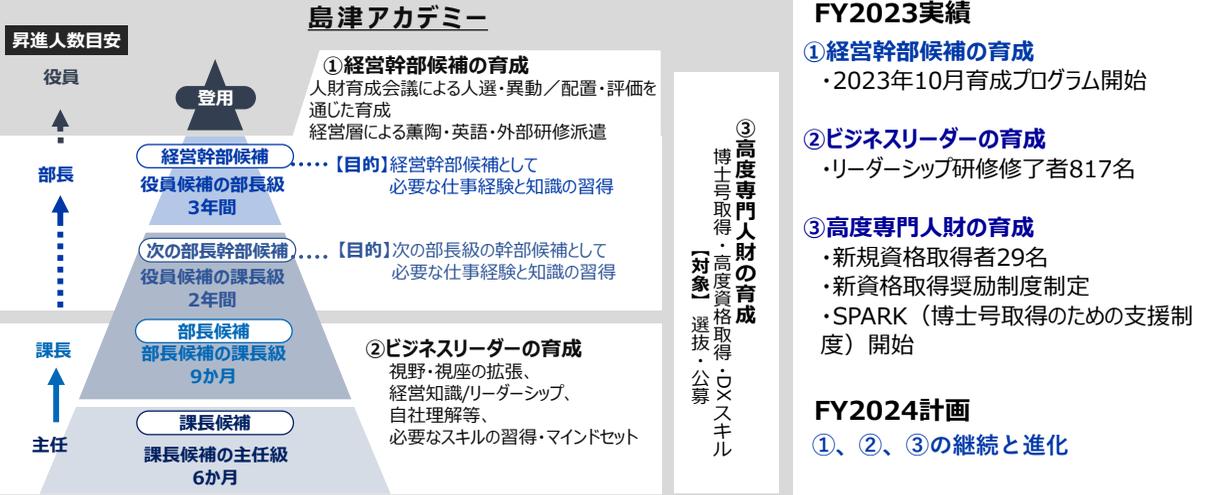
ガバナンス強化についてご説明します。

リスク対策室を新設し、内部統制、コンプライアンス、リスクマネジメントを一体化して統合リスク管理を推進します。

また、本社から地域コーポレート本部へ監督業務を移管するなど、権限を移譲し、各地域のコーポレート本部が配下の会社に対してガバナンスを効かせるなど、ガバナンス強化を図ります。

# 人財の育成強化

## 島津アカデミーを開校し、経営幹部候補とビジネスリーダーの育成に取り組む



人財の育成強化では、当社は島津アカデミーを開校し、経営幹部候補とビジネスリーダーの育成に取り組んでいます。

以上で説明を終了します。ありがとうございました。

背表紙



本説明資料に記載の将来の業績に関する内容は、経済情勢・為替・テクノロジーなど様々な外部変動要素により、事前見通しと大きく異なる結果となることがあります。

お問い合わせ先：(株)島津製作所  
コーポレート・コミュニケーション部 IRグループ  
電話：075-823-1673  
E-Mail：ir@group.shimadzu.co.jp

## 補足資料

# 計測機器/機種別売上高・リカーリング比率

Excellence in Science  
&  
Best for Our Customers

- 【重点機種】 ヘルスケア領域、グリーン領域及びアカデミアで増加し、10%増収
- 【その他機種】 グリーン領域、マテリアル領域で試験機が増加し、5%増収
- 【リカーリング】 PCR試薬が大幅に減少したが、メンテナンス・サービスが増加し、64億円増加

## 重点機種売上高

前年同期比 +162億円/ +10%

**1,855億円**

- ・ LC：ヘルスケア領域(製薬向けなど)で増加
- ・ MS：臨床、アカデミア向けで増加
- ・ GC：グリーン領域で増加

## その他機種売上高

前年同期比 +74億円/ +5%

**1,527億円**

- ・ 試験機：新素材向けで増加
- ・ コロナ関連：PCR試薬・AutoAmpが大幅減

## リカーリング比率

前年同期比 ▲1pt (売上高+64億円)

**36%**

- ・ メンテナンス・サービスは増加
- ・ PCR試薬が大幅減

### 重点機種

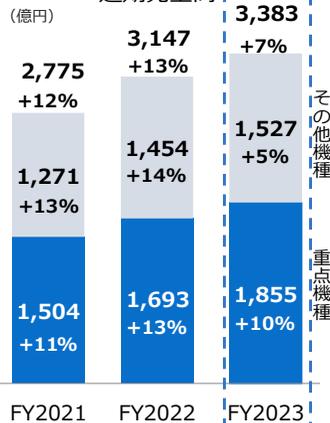


### その他機種



\*FY2023に上市した製品を新製品として表示

### 通期売上高

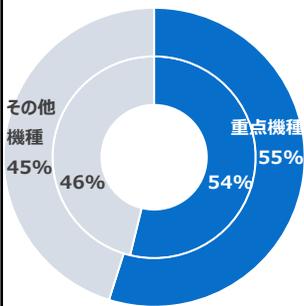


%表記は前年同期比増減率

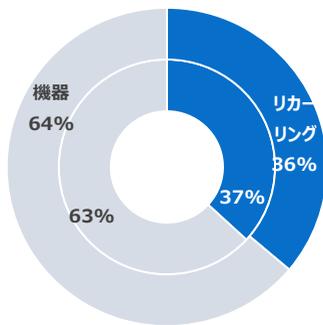
# 計測機器/各種売上高構成比率（通期）

Excellence in Science  
&  
Best for Our Customers

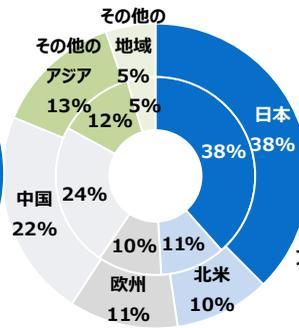
機種別



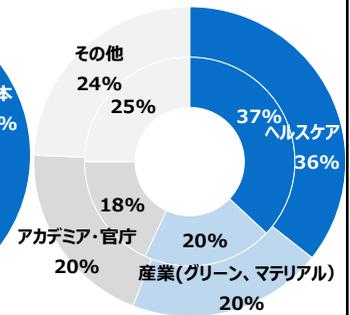
機器/リカーリング



地域別



市場別



※円グラフ外側はFY2023実績、内側はFY2022実績を示す

## 計測機器/重点機種売上高前年同期比

- ・重点機種 LC : 日本、欧州、その他アジアで製薬向けに増加、中国で製薬向けに減少  
 MS : 日本で食品、北米で環境向けに増加。中国はアカデミア特需の反動で減少  
 GC : 特需があった中国を除き、グローバルで新エネルギー向けなどに増加

為替影響を含む	FY2021					FY2022					FY2023				
	1Q	2Q	3Q	4Q	FY	1Q	2Q	3Q	4Q	FY	1Q	2Q	3Q	4Q	FY
重点機種	+24%	+10%	+10%	+3%	+11%	+2%	+14%	+9%	+25%	+13%	+18%	+13%	+12%	▲2%	+10%
全体	+29%	+12%	+9%	+4%	+12%	+1%	+15%	+15%	+20%	+13%	+16%	+10%	+6%	+2%	+7%

為替影響を除く	FY2021					FY2022					FY2023				
	1Q	2Q	3Q	4Q	FY	1Q	2Q	3Q	4Q	FY	1Q	2Q	3Q	4Q	FY
重点機種	+20%	+7%	+4%	▲3%	+6%	▲9%	▲2%	▲5%	+14%	▲0%	+12%	+8%	+7%	▲10%	+4%
全体	+25%	+9%	+4%	▲0%	+8%	▲8%	+3%	+3%	+13%	+3%	+11%	+6%	+2%	▲4%	+3%

※重点機種：液体クロマトグラフ（LC）、質量分析システム（MS）、ガスクロマトグラフ（GC）

## 計測機器/地域別売上高

【日本】ヘルスケア領域、グリーン領域で重点機種が増加。また、グリーン領域、マテリアル領域で試験機が増加  
 【海外】北米：大手製薬向け、PFAS向け増加 欧州：製薬向けにLC、臨床、アカデミア向けにMSが増加  
 中国：新エネルギー向けにGCが増加する一方、製薬・受託向けLC減少 その他アジア：インド、東南アジアで製薬向けにLC増加

単位 億円		FY 2022	FY 2023	前年同期比		通期概況
				増減額	増減率	
日本	通期	1,211	1,272	+60	+5%	・製薬向けにLC、MSが増加 ・新エネルギー開発向けにGC、新素材開発向けに試験機、EV向けに非破壊検査装置が増加 ・コロナ関連が減少（▲71億円）
	4Q	428	455	+27	+6%	
海外	通期	1,935	2,111	+175	+9%	・海外売上高比率は62%
	4Q	517	505	▲12	▲2%	
北米	通期	333	341	+8	+2%	・注力している製薬は、差別化製品のSFCなどにより大手製薬向けが増加 ・PFAS向けMSが増加 ・特定顧客向けLC、臨床向けMS（MALDI）が減少 *特定顧客を除けばLCは増加
	4Q	94	101	+7	+7%	
欧州	通期	327	389	+62	+19%	・臨床、アカデミア向けにMSが増加 ・製薬向けにLCが増加 ・新エネルギー向けにGCが増加
	4Q	90	99	+9	+10%	
中国	通期	741	747	+6	+1%	・新エネルギー向けにGCが増加、アカデミア、臨床向けにMSが増加 ・製薬、受託分析向けLCが大幅に減少
	4Q	195	153	▲42	▲21%	
その他の アジア	通期	391	456	+65	+17%	・インド（+20%）：中国からインドへの委託増加に伴う受託分析向けや製薬向けLCが増加 ・東南アジア（+20%）：製薬向けにLC、MSが増加
	4Q	96	106	+10	+11%	

## 計測機器/地域別売上高前年同期比

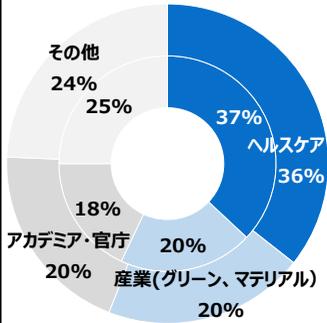
- ・日本：製薬向けにLC、グリーン向けに試験機増
- ・海外：中国が製薬向け、アカデミア特需の反動で大幅に減少

為替影響を含む	FY2021					FY2022					FY2023				
	1Q	2Q	3Q	4Q	FY	1Q	2Q	3Q	4Q	FY	1Q	2Q	3Q	4Q	FY
日本	+26%	+12%	+4%	+3%	+9%	▲3%	+4%	+15%	+8%	+7%	+5%	+10%	▲3%	+6%	+5%
北米	+35%	+12%	+2%	+9%	+13%	▲2%	+12%	+20%	+22%	+13%	+1%	+4%	▲4%	+7%	+2%
欧州	+28%	+17%	+9%	▲2%	+11%	+13%	▲1%	+18%	+28%	+14%	+20%	+27%	+21%	+10%	+19%
中国	+24%	+9%	+9%	▲2%	+10%	▲14%	+36%	+6%	+49%	+17%	+31%	▲4%	+6%	▲21%	+1%
その他のアジア	+27%	+10%	+18%	+14%	+17%	+37%	+25%	+24%	+18%	+25%	+15%	+20%	+20%	+11%	+17%
インド	+4%	+3%	+4%	+12%	+6%	+50%	+22%	+26%	+8%	+23%	+27%	+14%	+32%	+8%	+20%
為替影響を除く	FY2021					FY2022					FY2023				
日本	+26%	+12%	+4%	+3%	+9%	▲3%	+4%	+15%	+8%	+7%	+5%	+10%	▲3%	+6%	+5%
北米	+31%	+7%	▲7%	+0%	+7%	▲16%	▲9%	▲3%	+6%	▲5%	▲4%	▲1%	▲8%	▲4%	▲4%
欧州	+15%	+11%	+4%	▲4%	+5%	+8%	▲8%	+7%	+19%	+6%	+11%	+13%	+10%	▲3%	+8%
中国	+22%	+5%	▲0%	▲12%	+4%	▲28%	+9%	▲14%	+31%	▲3%	+24%	▲9%	+2%	▲31%	▲5%
その他のアジア	+22%	+6%	+10%	+6%	+10%	+20%	+4%	+4%	+6%	+8%	+10%	+15%	+15%	▲0%	+10%
インド	+2%	▲0%	▲3%	+3%	+0%	+27%	▲2%	+2%	▲6%	+2%	+20%	+9%	+26%	▲4%	+12%

# 計測機器/市場別売上高比率（通期）

Excellence in Science  
&  
Best for Our Customers

市場別売上高構成比



市場と主な業界	構成比		売上高 前年同期比	概況
	FY2022	FY2023		
ヘルスケア ●医薬品・食品 ●医療機関 ●受託分析業	37%	36%	+3%	<ul style="list-style-type: none"> <li>・日本、北米、欧州、その他アジアで医薬向け増加</li> <li>・欧州、中国で臨床向け増加</li> <li>・中国で医薬、CRO向けが大幅に減少</li> <li>・日本でPCR関連減少</li> </ul>
産業関連 (グリーン、マテリアル) ●化学・素材 ●電機 ●自動車	20%	20%	+8%	<ul style="list-style-type: none"> <li>・水素をはじめとする新エネルギー開発を中心にGCが増加</li> <li>・新材料開発に向け試験機が増加</li> <li>・EV向けに非破壊検査装置が増加</li> </ul>
大学・官公庁	18%	20%	+14%	<ul style="list-style-type: none"> <li>・欧州、中国でアカデミア向け増加</li> <li>・その他のアジアで官公庁向け増加</li> </ul>

※円グラフ外側はFY2023実績、内側はFY2022実績を示す

## 医用機器/機種別売上高・リカーリング比率

【X線装置】 血管撮影システムは、AIを搭載した新製品やワンマンオペレーションを可能にした操作性が評価され大幅増。  
一方、日本でX線TVや一般撮影が補正予算の反動で減少し、X線装置全体では2%増収  
【その他機種】 放射線治療用動体追跡システムの大口案件の反動減などで減少

**X線装置売上高**  
前年同期比 +12億円/+2%  
**550億円**

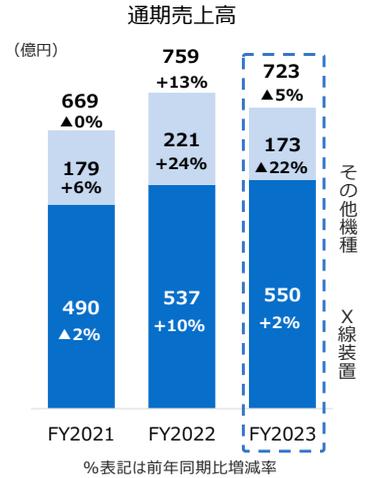
- 血管撮影システム：機能が評価され全地域で増収
- X線TVシステム：中国で現地生産品が増加
- 撮影装置：補正予算の反動で減少

**その他機種売上高**  
前年同期比 ▲48億円/ ▲22%  
**173億円**

- 前年の放射線治療用動体追跡システムの反動減

**リカーリング比率**  
前年同期比+2pt (売上高+3億円)  
**36%**

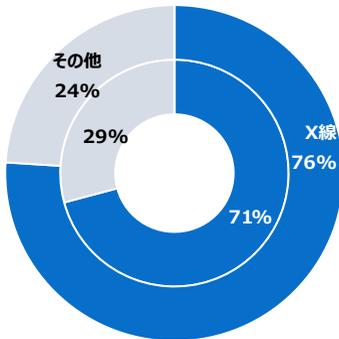
- メンテナンス・サービスが増加



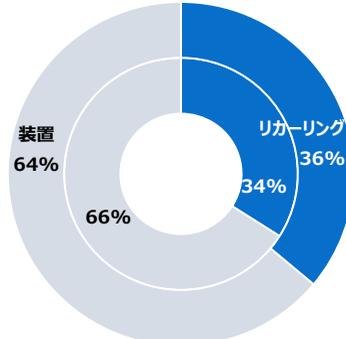
\*FY2023に上市した製品を新製品として表示

## 医用機器/各種売上高構成比率（通期）

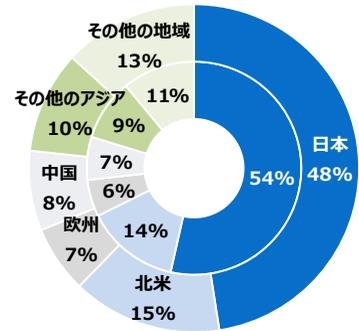
機種別



装置/リカーリング



地域別



※円グラフ外側はFY2023実績、内側はFY2022実績を示す

# 医用機器/地域別売上高

Excellence in Science  
&  
Best for Our Customers

単位 億円	FY2022	FY2023	前年同期比		通期概況	
			増減額	増減率		
日本	通期	406	344	▲62	▲15%	・世界初のAIによる画像処理技術を搭載した新製品の血管撮影システムが増加 ・補正予算の減少、大口案件の反動減
	4Q	130	108	▲22	▲17%	
海外	通期	353	379	+27	+8%	・海外売上高比率は53%と6pt増加
	4Q	95	108	+14	+14%	
北米	通期	107	106	▲1	▲1%	・効率的なワンマンオペレーションを可能とする新製品の血管撮影システムが、注力している日帰り手術施設を中心に増加 ・X線TVシステムや一般撮影システムが減少
	4Q	32	32	+0	+0%	
欧州	通期	43	48	+5	+12%	・東欧で実機見学や医師へのアプローチ強化により血管撮影システムが増加
	4Q	11	11	+0	+0%	
中国	通期	49	57	+7	+15%	・専任チーム設置による活動強化で血管撮影システムが増加 ・中国市場向けに現地生産しているX線TVシステムの新製品が増加
	4Q	14	13	▲1	▲5%	
その他の アジア	通期	70	73	+2	+3%	・東南アジアやインドで血管撮影システムが大幅に増加 ・東南アジアで回診車の大口案件の反動減
	4Q	17	21	+4	+27%	

## 医用機器/地域別売上高前年同期比

・国内：血管撮影システムは増加したものの、前年補正予算の反動減で減少

・海外：X線TV、血管撮影システムを中心に増加。一般撮影が減少

為替影響を含む	FY2021					FY2022					FY2023				
	1Q	2Q	3Q	4Q	FY	1Q	2Q	3Q	4Q	FY	1Q	2Q	3Q	4Q	FY
日本	+24%	+8%	▲10%	▲3%	+3%	+13%	+12%	▲3%	+5%	+7%	▲24%	▲20%	+7%	▲17%	▲15%
北米	+3%	▲16%	+11%	+14%	+2%	+4%	+52%	+21%	+28%	+26%	▲18%	+11%	▲2%	+0%	▲1%
欧州	▲13%	▲39%	▲33%	▲12%	▲27%	+5%	+61%	+2%	+33%	+22%	+16%	▲7%	+41%	+0%	+12%
中国	▲25%	+3%	▲11%	▲10%	▲11%	+12%	▲12%	+5%	+23%	+6%	+24%	+38%	+7%	▲5%	+15%
その他のアジア	+16%	+7%	+26%	▲22%	+4%	+10%	+16%	+7%	+19%	+13%	+20%	▲28%	+10%	+27%	+3%
為替影響を除く	FY2021					FY2022					FY2023				
1Q	2Q	3Q	4Q	FY	1Q	2Q	3Q	4Q	FY	1Q	2Q	3Q	4Q	FY	
日本	+24%	+8%	▲10%	▲3%	+3%	+13%	+12%	▲3%	+5%	+7%	▲24%	▲20%	+7%	▲17%	▲15%
北米	+2%	▲19%	+2%	+5%	▲3%	▲12%	+22%	▲3%	+11%	+5%	▲23%	+6%	▲6%	▲10%	▲7%
欧州	▲21%	▲42%	▲36%	▲14%	▲31%	+0%	+50%	▲8%	+22%	+13%	+7%	▲18%	+28%	▲11%	+1%
中国	▲27%	▲1%	▲18%	▲18%	▲16%	▲6%	▲30%	▲16%	+7%	▲12%	+17%	+32%	+3%	▲17%	+8%
その他のアジア	+15%	+5%	+18%	▲28%	▲0%	▲2%	▲4%	▲11%	+7%	▲3%	+14%	▲31%	+6%	+16%	▲2%

# 産業機器/機種別売上高・TMPリカーリング比率

Excellence in Science  
&  
Best for Our Customers

【TMP】 半導体製造装置向けは減少したが、グリーン関連向け（薄膜太陽電池製造装置など）が増加し、**3%増収**

【油圧】 国内で建機、特装車両向け、北米で輸送機向けが増加し、**3%増収**

【その他】 EV用セラミック製造向け工業炉が増加し、**6%増収**

**TMP売上高**  
前年同期比+9億円/+3%  
**319億円**

・SPE\*向けはQoQでは30%増

**TMPリカーリング比率**  
前年同期比+1pt（売上高+5億円）  
**16%**

・中国・台湾で顧客カバー率向上により増加

**油圧機器売上高**  
前年同期比 +5億円/+3%  
**157億円**

**その他機種売上高**  
前年同期比 +10億円/ +6%  
**178億円**

**ターボ分子ポンプ(TMP)**

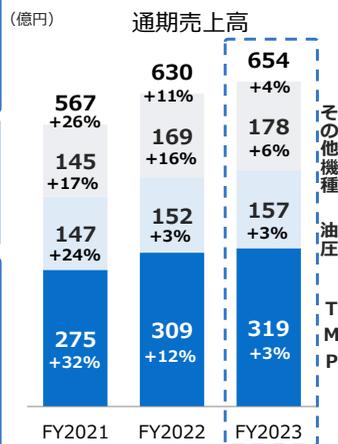
電源一体型      電源別置き型

**油圧機器**

ギヤポンプ      コントロールバルブ

**その他**

工業炉      ガラスワインダ



%表記は前年同期比増減率

# 産業機器/機種別売上高前年同期比

Excellence in Science  
&  
Best for Our Customers

**TMP** : SPE向けが増加  
**油圧** : 北米で産業車両向け増加  
**その他機種** : EV用セラミック製造向け工業炉が増加

為替影響を含む	FY2021					FY2022					FY2023				
	1Q	2Q	3Q	4Q	FY	1Q	2Q	3Q	4Q	FY	1Q	2Q	3Q	4Q	FY
TMP	+16%	+38%	+50%	+27%	+32%	+20%	+22%	+9%	+1%	+12%	▲3%	+0%	▲0%	+15%	+3%
油圧	+37%	+37%	+21%	+5%	+24%	▲1%	+1%	+3%	+10%	+3%	+10%	+8%	▲4%	+1%	+3%
その他	+33%	+32%	▲3%	+18%	+17%	+17%	+12%	+11%	+24%	+16%	▲2%	+2%	+10%	+11%	+6%

為替影響を除く	FY2021					FY2022					FY2023				
	1Q	2Q	3Q	4Q	FY	1Q	2Q	3Q	4Q	FY	1Q	2Q	3Q	4Q	FY
TMP	+13%	+35%	+44%	+22%	+28%	+11%	+11%	▲1%	▲6%	+3%	▲7%	▲4%	▲4%	+6%	▲2%
油圧	+34%	+34%	+18%	+3%	+21%	▲6%	▲4%	▲2%	+7%	▲1%	+9%	+7%	▲6%	▲2%	+2%
その他	+32%	+30%	▲6%	+14%	+15%	+7%	+1%	+2%	+17%	+7%	▲4%	+1%	+8%	+6%	+3%

# 航空機器/分野別売上高

Excellence in Science  
&  
Best for Our Customers

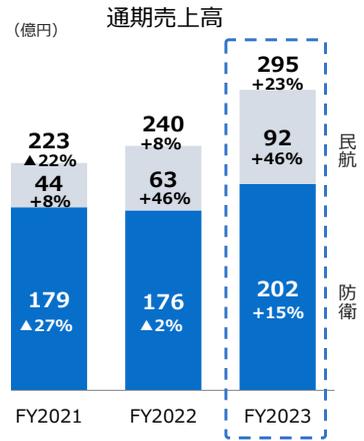
【防衛】 航空機用搭載品の需要拡大により、15%増収

【民航】 航空旅客需要の回復による航空機増産や補用品の売上増により、46%増と大幅増収

**防衛分野売上高**  
前年同期比 +26億円/ +15%  
**202億円**

- 航空機用搭載品の需要が拡大する中、売上平準化の取組を強化

**民間航空機分野売上高**  
前年同期比 +29億円/ +46%  
**92億円**



%表記は前年同期比増減率

# 損益計算書 (1-3月)

Excellence in Science  
&  
Best for Our Customers

<b>売上高</b> 前年同期比：+35億円/+2% <b>1,463億円</b>	<b>営業利益</b> 前年同期比：▲4億円/▲2% <b>220億円</b>	<b>営業利益率</b> 前年同期比：▲0.7pt <b>15.0%</b>	<b>当期純利益</b> 前年同期比：+19億円/+12% <b>180億円</b>
---	---	--	--

	単位：億円	第4四半期(1月-3月)		前年同期比	
		FY2022	FY2023	増減額	増減率
業績	売上高	1,428	1,463	+35	+2%
	営業利益	224	220	▲4	▲2%
	営業利益率	15.7%	15.0%	▲0.7pt	
	経常利益	226	240	+14	+6%
	親会社株主に帰属する当期純利益	161	180	+19	+12%
為替	平均為替レート：米ドル (円)	132.40	148.63	+16.23	+12%
	ユーロ (円)	142.17	161.37	+19.20	+14%
	研究開発費	54	61	+7	
	設備投資額	51	61	+10	
	減価償却費	46	47	+1	

為替影響額

売上高：80億円

営業利益：27億円

# セグメント別損益（1-3月）

Excellence in Science  
&  
Best for Our Customers

計測機器：増収減益

医用機器：減収増益

産業機器：増収増益  
過去最高

航空機器：増収増益

単位：億円	売上高				営業利益				営業利益率		
	FY2022	FY2023	前年同期比		FY2022	FY2023	前年同期比		FY2022	FY2023	前年同期比
			増減額	増減率			増減額	増減率			
計測機器	945	960	+15	+2%	195	167	▲27	▲14%	20.6%	17.4%	▲3.2pt
医用機器	225	216	▲8	▲4%	18	24	+6	+34%	7.9%	11.1%	+3.1pt
産業機器	167	184	+17	+10%	10	21	+11	+116%	5.9%	11.5%	+5.6pt
航空機器	77	86	+8	+11%	7	8	+1	+16%	9.2%	9.6%	+0.4pt
その他	14	17	+3	+19%	1	4	+2	+167%	6.7%	15.3%	+8.6pt
調整額	-	-	-	-	▲6	▲4	+2	-	-	-	-
合計	1,428	1,463	+35	+2%	224	220	▲4	▲2%	15.7%	15.0%	▲0.7pt

## リカーリング比率

計測 : PCR試薬の減少などにより減少  
 医用 : 北米・中国でメンテナンス・サービスが増加  
 TMP : 中国・台湾で顧客カバー率向上により増加

計測	FY2021					FY2022					FY2023				
	1Q	2Q	3Q	4Q	FY	1Q	2Q	3Q	4Q	FY	1Q	2Q	3Q	4Q	FY
リカーリング売上高 前年同期比	+33%	+16%	+4%	+6%	+13%	▲6%	+5%	+21%	+11%	+10%	+10%	+3%	▲4%	▲2%	+1%
リカーリング比率	38%	35%	35%	35%	36%	39%	36%	40%	33%	37%	39%	35%	37%	34%	36%
医用	FY2021					FY2022					FY2023				
	1Q	2Q	3Q	4Q	FY	1Q	2Q	3Q	4Q	FY	1Q	2Q	3Q	4Q	FY
リカーリング売上高 前年同期比	+14%	+9%	+2%	+1%	+6%	▲2%	+3%	+0%	+3%	+3%	▲3%	▲7%	+1%	+0%	▲2%
リカーリング比率	38%	35%	39%	32%	36%	36%	32%	39%	30%	34%	42%	34%	37%	33%	36%
TMP	FY2021					FY2022					FY2023				
	1Q	2Q	3Q	4Q	FY	1Q	2Q	3Q	4Q	FY	1Q	2Q	3Q	4Q	FY
リカーリング売上高 前年同期比	+18%	+11%	+15%	+5%	+12%	▲1%	▲6%	+4%	▲17%	▲4%	▲9%	▲8%	+10%	+36%	+6%
リカーリング比率	17%	17%	15%	15%	16%	15%	14%	16%	13%	15%	15%	14%	18%	17%	16%

※為替影響を除外